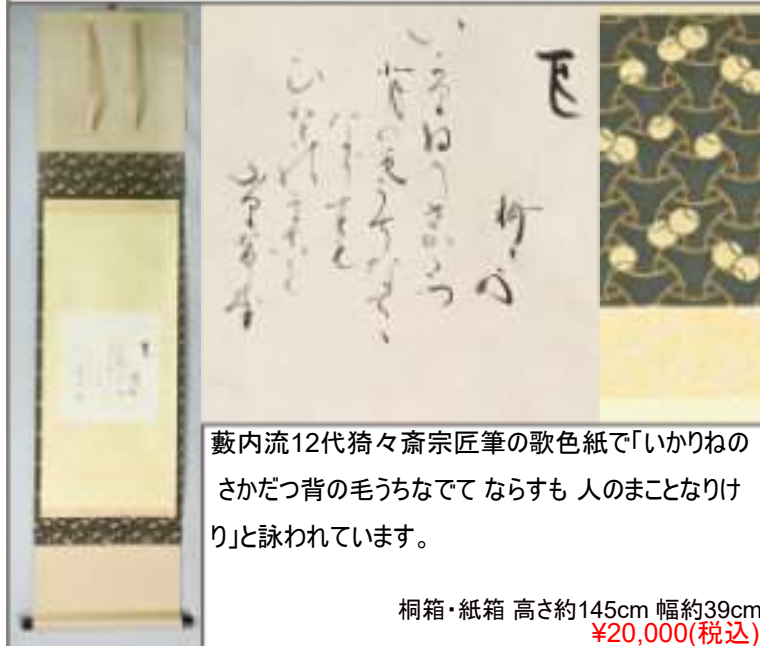


馬の歌 色紙表装 猗々斎筆



馬の歌 懐紙表装 猗々斎筆



掛け馬画賛 透月斎筆



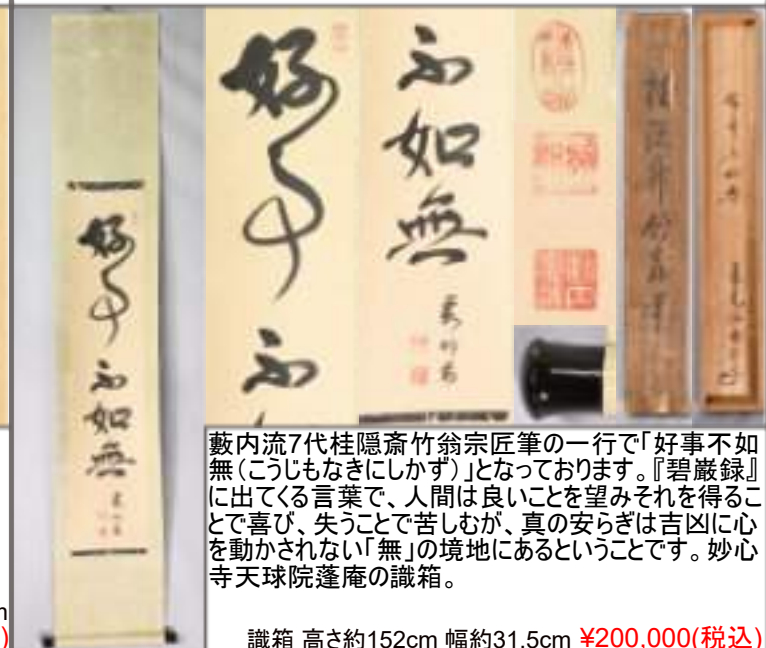
「駿馬旭日暁」一行 猗々斎筆



「春風尋新切」一行 透月斎筆



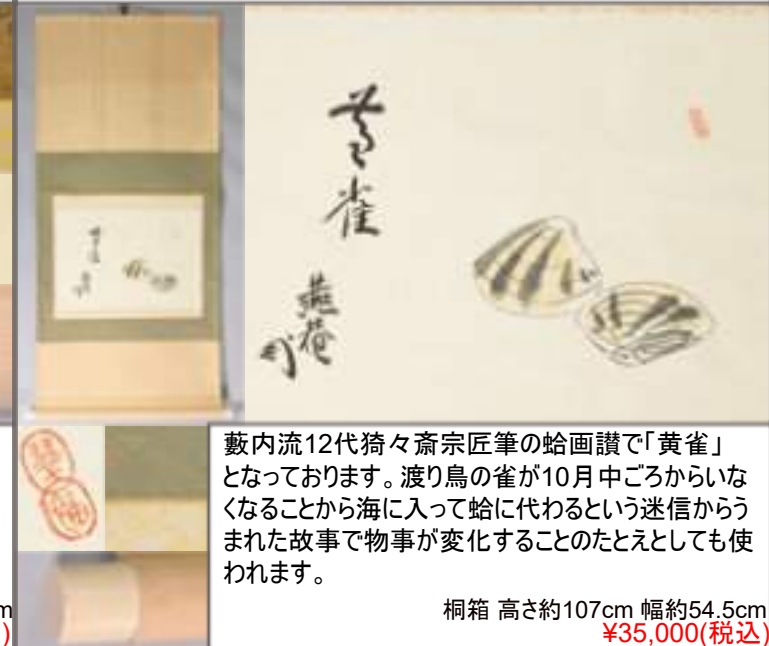
「好事不如無」一行 竹翁筆



「無量寿」一行 青々斎筆



蛤画賛「黄雀」猗々斎筆



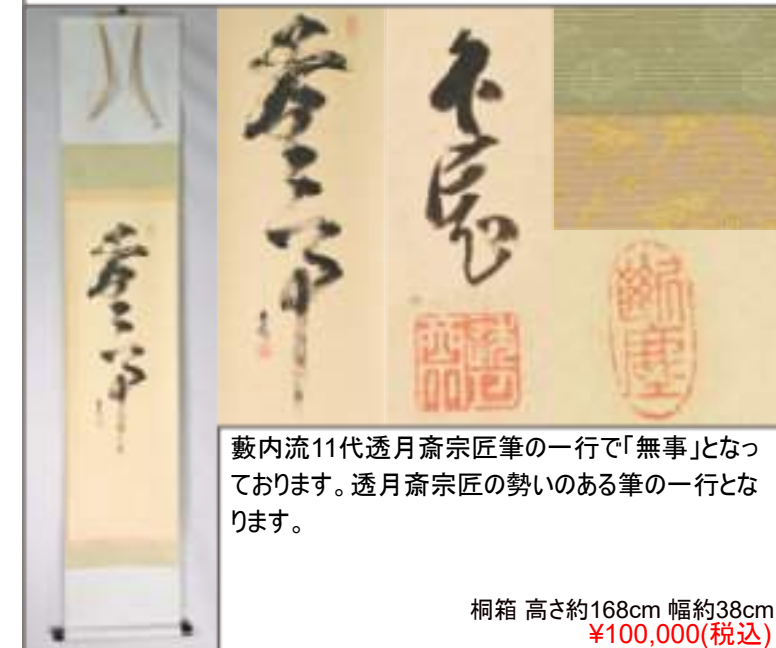
「花開萬國春」一行 猗々斎筆



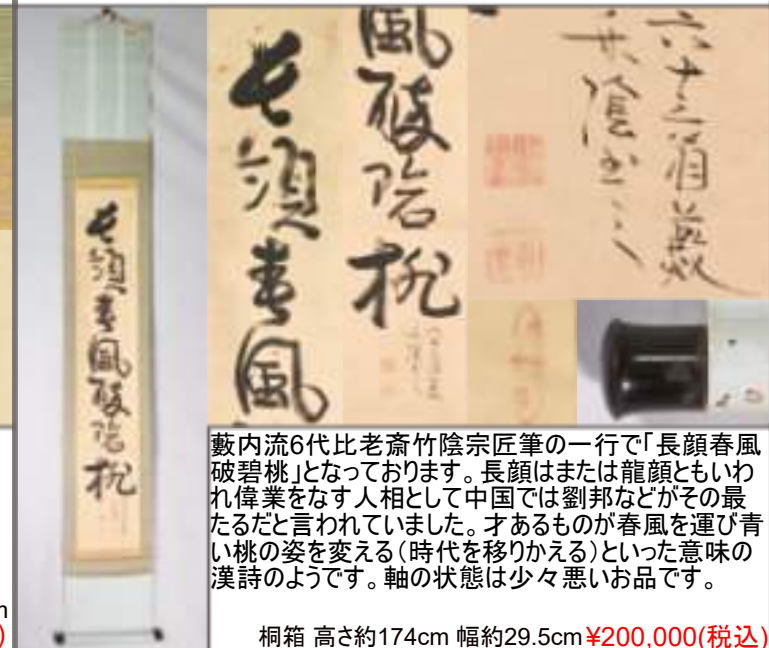
「飛鶴年寿斎」一行 透月斎筆



「無事」一行 透月斎筆



「長顔春風破碧桃」一行 比老斎筆



黄交趾大亀香合 通次阿山作

黄交趾の大亀写し香合で京焼の陶工である通次阿山の作となっております。大亀香合の本歌は「型物香合」の一種であり交趾焼のものが有名で江戸時代から茶人に珍重され、幕末には香合番付で東の大関に載るほどの人気を誇りました。明治時代には藤田伝三郎が亡くなる直前に手に入れた逸話でも知られます。

共箱 縦約7cm 横約5cm 高さ約4cm
¥30,000(税込)

染付桃香合 須田青華作

九谷焼の名工である須田青華作の染付桃香合になります。須田青華は古九谷や祥瑞、呉須赤絵といった伝統的な様式を継承しつつ花鳥、幾何学模様など様々な絵柄を得意とします。こちらは3代青華の作。

共箱 縦約5.5cm 横約6cm 高さ約4.5cm
¥35,000(税込)

交趾焼火焰馬香合 永楽善五郎作

京焼の名工である16代永楽善五郎即全作の交趾焼火焰馬香合になります。「火焰馬(かえんば)」は主に「丙午(ひのえうま)」の年の縁起物として、燃え盛る炎のような力強さや飛躍を意味します。2026年は丙午の年です。

共箱 直径約6.5cm 高さ約3.5cm
¥40,000(税込)

古清水宝珠宝尽し香合

古清水の宝珠宝尽し香合になります。古清水とは粟田口、八坂、清水、音羽などで江戸初期から中期にかけてつくられた色絵陶器の総称です。

共箱 直径約6.5cm 高さ約6cm
¥58,000(税込)

五葉形唐物写香合 清水六兵衛作

唐物の五葉香合の写して色絵陶器で焼かれた物になります。京焼の陶工である清水六兵衛の作。

桐箱 直径約7cm 高さ約2.5cm
¥70,000(税込)

佛手柑香合

時代の仏手柑香合になります。字が表すとおり果実の形が手の指の形に似ており、千手観音様を思わせることから由来と言われています。佛手の発音は、「福寿」と似ており、多福多寿を表す言葉をされお正月の縁起物として飾られます。

時代箱 縦約5cm 横約9cm 高さ約4.5cm
¥100,000(税込)

馬香合 三種 家元在判

藪内のお家元在判の馬香合になります。

左から猊々斎宗匠在判・箱 ¥20,000(税込)

中央、青々斎宗匠在判・紙箱 ¥10,000(税込)

右、青々斎宗匠在判(底)・紙箱
¥10,000(税込)

共・紙箱 縦約8cm 横約3.5(4)cm 高さ約7cm

左馬香合 青々斎(紹春) 手造 桐箱・共箱

藪内流13代青々斎宗匠作の手造り左馬香合になります。左馬(ひだりうま)の縁起の良いといわれる所以は諸説ありますが、うまを反対から読むことにより「舞う」となりおめでたい席で「舞い」が欠かせないことから、福を招くという意味合いや、馬は人が引くものですが左馬は逆向きなので「馬が人を連れてくる」つまり「千客万来」や「商売繁盛」に繋がるとされます。

縦約6.5cm 横約5.8cm 高さ約3.85cm(約4cm)
桐箱 ¥35,000(税込) 共箱 ¥50,000(税込)

金鯛香合 大谷尊融作

浄土真宗本願寺派第21世法主大谷光尊(明如)の子であり大谷尊由の弟でもある大谷尊融、西庵作の金鯛香合です。西庵も透月斎宗匠と共に関西の茶道会を牽引していました。お正月の広間などで飾やすい香合です。

共箱 縦約8cm 横約13.5cm 高さ約6cm
¥30,000(税込)

うちで焼き小槌香合 透月斎在判

打出焼の小槌香合で藪内流11代透月斎宗匠が在判をされています。打出焼は明治の終わり近く初代阪口砂山(庄蔵)から二代目砂山(淳)の約六十数年間、旧打出村(現在の兵庫県芦屋市)で作陶された京焼の流れをくむ焼き物です。

箱無 縦約5cm 横約3.8cm 高さ約4cm
¥20,000(税込)

貝香合 銘「含珠」透月斎在判・箱

藪内流11代透月斎宗匠在判の蛤香合で「含珠」となっております。含珠とは真珠を口に含ませる風習や再生や回帰の願いを指しています。内金地で透月斎宗匠の在判あり。

共箱 縦約11cm 横約9cm 高さ約5cm
¥65,000(税込)

扇面松竹梅香合 永楽善五郎作 透月斎箱

京焼の陶工である14代永楽善五郎得全作の扇面松竹梅香合で藪内流11代透月斎宗匠の箱となっております。

共箱 縦約6.8cm 横約9cm 高さ約2cm
¥88,000(税込)

| | |
|--|--|
| | <h3>古丹波蹲花入 銘「やどり木」竹猗箱</h3> <p>古丹波の蹲掛け花入で藪内流8代真々斎竹猗宗匠が銘を「やどり木」となっております。宿り木は他の樹木の枝に寄生して水分や養分を吸収する常緑植物で、冬の寒い中でも緑の色を絶やさぬ強さがあります。そのため冬の季語とされます。</p> <p>共箱 直径約12cm 高さ約11cm ¥68,000(税込)</p> |
| | <h3>伊賀耳付花入「雀菴」透月斎在判</h3> <p>伊賀の耳付花入れで藪内流11代透月斎宗匠が背に朱書きで「雀菴(かくあん)」と残されています。雀は鶴と意味を同じく鶴の庵、鶴の休むところといった意味になるかと思われます。透月斎宗匠時代の伊賀焼のようです。</p> <p>桐箱 縦約13cm 横約14cm 高さ約23.5cm ¥80,000(税込)</p> |
| | <h3>休々斎作置筒花入 銘「つらら」</h3> <p>藪内流10代休々斎宗匠作の置き筒染み竹花入れで銘を「つらら」となっております。竹の節の部分で少し角度の変化があり、染みの部分も特徴的で見どころの多い置き筒の竹花入れになります。</p> <p>共箱 直径約9cm 高さ約23cm ¥70,000(税込)</p> |
| | <h3>休々斎、透月斎合作二重切花入 銘「幸」</h3> <p>藪内流10代休々斎宗匠と11代透月斎宗匠の合作という珍しい二重切の竹花入れで銘を「幸」となっております。花入れの背部に両宗匠の花押がごさいます。</p> <p>共箱 上底約8.5cm 下底約11cm 高さ約33cm ¥120,000(税込)</p> |
| | <h3>比老斎作一重切花入 銘「若駒」</h3> <p>藪内流6代比老斎竹陰宗匠作の一重切竹花入れで銘を「若駒」とされています。若駒は若い馬のことを指し晩春、初夏の季語になります。</p> <p>桐箱 上底約8cm 下底約10cm 高さ約32cm ¥148,000(税込)</p> |
| | <h3>竹猗作嵯峨竹一重切花入 銘「霊亀」</h3> <p>藪内流8代真々斎竹猗宗匠作の一重切花入れで銘を「霊亀」となっております。霊亀は玄武または蓬萊山を背負う亀のことを指し長寿や吉兆の象徴、そして奈良時代の日本の元号としても使われた言葉です。彫銘も珍しい花入れです。</p> <p>共箱 上底約10.5cm 下底約11.5cm 高さ約32cm ¥180,000(税込)</p> |

| | |
|--|---|
| | <h3>浅葱交趾波頭蓋置 翠嵐作</h3> <p>京焼の陶工で交趾焼を得意とする中村翠嵐作の浅黄交趾波頭蓋置になります。浅黄色の美しい蓋置で、波頭の柄は寄せては返す波は果てる事が無い事から、吉祥文様とされています。</p> <p>共箱 直径約5.5cm 高さ約5.5cm ¥20,000(税込)</p> |
| | <h3>鑄銅橋蓋置 鉄也作</h3> <p>高岡の鑄物師である鉄也作の鑄銅橋蓋置になります。橋の欄干の蓋置になります。</p> <p>共箱 直径約4.2cm 高さ約5.3cm ¥20,000(税込)</p> |
| | <h3>瀬戸蓋置 透月斎箱</h3> <p>藪内流11代透月斎箱の瀬戸蓋置になります。瀬戸の手取りの良い使いやすい蓋置で透月斎宗匠の喜寿の箱のようです。</p> <p>共箱 直径約5cm 高さ約5cm ¥25,000(税込)</p> |
| | <h3>金紫銅モール一葉蓋置 大西清右衛門作</h3> <p>釜師の14代大西清右衛門作の金紫銅モールの一葉蓋置になります。毛織(モール)とは一説にムガル帝国から輸出された毛織物が訛ってモールと呼ばれるようになり、その織物の文様を模して銅合金に彫り・叩き出した金属工芸品も同様にモールと呼ばれる様になったといわれています。</p> <p>共箱 直径約5.2cm 高さ約5.3cm ¥35,000(税込)</p> |
| | <h3>箱根竹蓋置 透月斎在判・箱</h3> <p>藪内流11代透月斎宗匠作の箱根竹蓋置で朱漆で在判をされています。箱根竹は節間が長く煙管の羅字などにも多く使われました。</p> <p>共箱 直径約4.5cm 高さ約5cm ¥25,000(税込)</p> |
| | <h3>南京瑠璃竹の節蓋置 透月斎箱</h3> <p>藪内流11代透月斎宗匠箱の南京瑠璃竹の節蓋置になります。瑠璃釉の美しい蓋置で新渡の工芸になります。</p> <p>共箱 直径約4cm 高さ約4.5cm ¥40,000(税込)</p> |

金鍍金釜鑑 家伝の形 透月斎箱 村田耕閑作



旧くは藪内流の鋳物師であった村田耕閑作の金鍍金釜鑑で藪内流11代透月斎宗匠の箱で「家伝の形」とされています。

藪内流の好みの釜鑑です。

共箱 直径約7cm
¥30,000(税込)

南鐐竹節釜鑑 村田耕閑作



旧くは藪内流の鋳物師であった村田耕閑作の南鐐竹節釜鑑です。

耕閑らしく細工の良い釜鑑です。

共箱 直径約7cm
¥55,000(税込)

黒味銅風炉灰匙 家伝の写し 透月斎箱 村田耕閑作



村田耕閑作の黒味銅風炉灰匙で藪内流11代透月斎宗匠が「家伝の写し」と箱書きをされています。

共箱 縦約18.5cm 横約3.3cm
¥48,000(税込)

真鍮渦頭飾火箸 高木治良兵衛作



京都の鋳物師である高木治良兵衛作の真鍮渦頭飾火箸になります。渦は連続した模様で途切れることなく続くことから永遠の象徴とされ、幸せを巻き取るという縁起の良い意味があります。

共箱 長さ約28.5cm
¥30,000(税込)

南鐐梅頭金鍍金飾火箸 村田耕閑作



鋳物師である村田耕閑作の南鐐梅頭金鍍金飾火箸になります。梅の花芯の細工も素晴らしい手の込んだ火箸です。

共箱 直さ約29cm
¥80,000(税込)

瓢炭斗 透月斎箱



藪内流11代透月斎宗匠の箱書きの瓢炭斗になります。大ぶりて炉用の炭斗として重宝します。

共箱 直径約29cm 高さ約18cm
¥58,000(税込)

朝日焼灰器 透月斎在判・箱



朝日焼の灰器で藪内流11代透月斎宗匠が在判・箱書きをされています。

共箱 直径約26cm 高さ約5cm
¥28,000(税込)

利休形灰匙 炉・風炉一双 宮崎寒菴作



利休好みの灰匙の炉・風炉の一双で金沢の釜師である13代宮崎寒菴の作となっております。

共箱 炉:縦約24cm 横約6cm
風炉:縦約19.5cm 横約4cm
¥40,000(税込)

桜皮巻炉用灰匙 透月斎好み 宮崎寒菴作



釜師である宮崎寒菴作の桜皮巻炉用灰匙で藪内流11代透月斎宗匠が「昭和四年十一月北遊して好み造らしむ」とあり金沢にいった際に好んだ物の様です。

共箱 縦約24cm 横約6.3cm
¥68,000(税込)

藪内流好み形火箸 炉・風炉一双 和田美乃助作 乾老舗製



藪内流好みの炉・風炉の火箸の一双で京都の釜師であった和田美之助の作となっております。風炉の素張り銅と呼ばれる空洞の火箸が特徴的です。乾老舗製。

共箱 炉:長さ約29cm
風炉:長さ約28.5cm
¥100,000(税込)

雲華前瓦 一双 白井半七作



隅田川焼の白井半七作の雲華前瓦の一双です。旧くは藪内流の好みの前瓦というものがあります。

共箱 縦約7.5cm 横約11cm
¥15,000(税込)

方盆(若狭盆) 遠坂宗仙作



旧くは藪内流の塗師であった遠坂宗仙作の方盆(若狭盆)になります。大変良質な塗りで茶入れ盆として格別です。

共箱 縦約21cm 横約21cm 高さ約2cm
¥80,000(税込)

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>朧銀鍍金青海盆 折鶴彫刻 村田耕閑作</p> <p>旧くは藪内流の鋳物師であった村田耕閑作の朧銀鍍金青海盆で折鶴の彫刻がされた干菓子盆になります。</p> <p>共箱 直径約23.5cm 高さ約2cm ¥30,000(税込)</p> |
| | | <p>西王母桃形菓子器 豊斎作</p> <p>塗師の豊斎作の西王母桃形菓子器です。塗りの蓋物喰籠で可愛い菓子器になります。</p> <p>共箱 縦約15.8cm 横約18.8 高さ約7cm ¥35,000(税込)</p> |
| | | <p>古形写菱盆 休々斎箱</p> <p>朱刷毛目の古形写し菱盆で藪内流10代休々斎宗匠の箱と在判となっております。大坂の道具商の春海藤次郎の仕立てです。</p> <p>共箱 縦約14.5cm 横約27.5cm 高さ約2.5cm ¥38,000(税込)</p> |
| | | <p>交趾写五彩青海菓子器 露石作 猗々斎箱</p> <p>交趾写しの五彩青海菓子器で京焼の陶工である赤沢露石の作となっております。藪内流12代猗々斎宗匠の若宗匠時代の紹光の箱書きとなっております。</p> <p>共箱 直径約14cm 高さ約2.3cm ¥55,000(税込)</p> |
| | | <p>松木地菓子盆 猗々斎在判 橋口宗栄作</p> <p>松木地菓子盆で藪内流の塗師である橋口宗栄の作となっております。波の絵が描かれており裏には猗々斎宗匠の在判があります。波はよせては返すことから縁起のいい意匠になります。</p> <p>共箱 直径約23cm 高さ約2.5cm ¥20,000(税込)</p> |
| | | <p>藪内好茶碗台 家伝の写し 乾老舗製 透月斎箱</p> <p>藪内流の家伝の写し形の茶碗台になります。他の流儀にはあまり同型の台は見られません。一つのお席に貴人がお二人入られる場合も加味した藪内流らしい気遣いの貴人台になります。乾老舗謹製、透月斎宗匠のお箱です。</p> <p>共箱 直径約16.7cm 高さ約3.5cm ¥40,000(税込)</p> |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>晩酌徳利 吉兆好 一双 白井半七作</p> <p>今戸焼の陶工である白井半七作の晩酌徳利の一双で料亭の吉兆好みとなっております。八分徳利という小さいサイズになります。</p> <p>共箱 直径約5.5cm 高さ約8.5cm ¥45,000(税込)</p> |
| | | <p>山伏盃 透月斎箱</p> <p>藪内流11代透月斎宗匠の在判・箱の山伏盃になります。箱書きには「春屋国師この盃を山伏と名付けて家祖剣仲に賜るを写すうちみにはおそろしげなれどなれてつばいは山伏といふ」とされています。</p> <p>共箱 直径約11.4 cm 高さ約2.5cm ¥30,000(税込)</p> |
| | | <p>仁清写鶴徳利 永楽善五郎作</p> <p>仁清写しの鶴徳利で16代永楽善五郎即全の作となっております。藪内流お家元では同型の漆焼の物が使われることがあります。頭からお酒を入れてくちばしから注ぐ楽しい酒器です。</p> <p>共箱 縦約7cm 横約8cm 高さ約21cm ¥78,000(税込)</p> |
| | | <p>輪花口竹根建水 真珠庵山田宗敏箱 戸沢左近作</p> <p>輪花口の竹根建水で指物師の戸沢左近作のものになります。大徳寺真珠庵の山田宗敏和尚の箱書きとなっております。</p> <p>共箱 直径約14cm 高さ約7.2cm ¥30,000(税込)</p> |
| | | <p>時代唐銅餌畚形建水 随竹庵箱</p> <p>時代の唐銅建水で藪内流の分家である福田随竹庵6代竹有の箱書きとなっております。</p> <p>識箱 直径約14cm 高さ約9.5cm ¥40,000(税込)</p> |
| | | <p>藪内好天目台 家伝の写し 休々斎箱 遠坂宇兵衛作</p> <p>藪内流家伝の写しの形の天目台で旧くは藪内流の塗師であった遠坂宗仙作になります。藪内流10代休々斎宗匠の箱書きです。</p> <p>共箱 直径約15.5cm 高さ約8cm ¥55,000(税込)</p> |

藪内好 桑木地袴腰煙草盆



藪内流好みの桑木地袴腰煙草盆です。「袴腰(はかまごし)」は、袴の後ろ腰部分の台形をした板のことを指します。藪内流の数少ない好み形の煙草盆です。

箱無 縦約15cm 横約28cm 高さ約7cm
¥38,000(税込)

飛騨春慶塗 山里棚 猗々斎宗匠在判 乾老舗製



飛騨春慶塗の山里棚で藪内流12代猗々斎宗匠が天板裏に「家伝の形」と残されています。炉用の山里棚になります。乾老舗謹製。

共箱 縦約32.5cm 横約48 高さ約35cm
¥58,000(税込)

小及台 家伝の写 猗々斎箱 橋口宗栄作



藪内流好みの小及台で藪内流の塗師である橋口宗栄の作となっております。藪内流12代猗々斎宗匠が「家伝の写し」と箱書きを残されています。

共箱 縦約27cm 横約33cm 高さ35.5cm
¥88,000(税込)

栖楼棚 家伝の写 猗々斎箱 橋口宗栄作



藪内流の好みの棚の一種、栖楼棚で藪内流の塗師である橋口宗栄の作となっております。状態の良いお棚です。

共箱 縦約32.5cm 横約32.5cm
¥185,000(税込)

金砂子片落とし風炉先



片落としの金砂子風炉先になります。金砂子は膠をつかい金を吹き付けて作る手法で古いものは平安時代の巻物などにもみられた大変古い手法です。

箱無 縦約55cm 横約89.5cm 高さ約4cm
¥35,000(税込)

杵網代腰片落とし風炉先 木遊軒作



杉網代腰の片落とし風炉先で指物師の萩井好斎木遊軒の作となっております。紙張りの部分は取り外しができ蝶番がまわるので逆勝手置きも可能です。

共箱 縦約55cm 横約93cm 高さ約4cm
¥45,000(税込)